

指示語に強くなる！

指示語を正しく理解することは、文や言葉のつながりを正しくとらえるためにとても重要なことなんだよ。
文や言葉のつながりを正しくとらえる力は、内容の把握にも、構成の把握にも絶対に必要な力だからね！

一、指示語って？

「こ・そ・あ・ど」が頭に付くので、「こそあど言葉」といいます。

前後の文や文中の言葉を指し示す言葉で、物事・場所・方角・状態などを指し示したり尋ねたりするときに使います。

指示語は繰り返しを避けるために用いられるものです。だから基本的には指し示す内容は指示語より前にあります。

二、指示語の問題「攻略法」

1、指示語が指し示す内容は、指示語より前にあり！
指示語より前の部分を探す。

ほとんどの場合、指示語の指す内容は前の部分に書かれている。

前になければ、後ろを探す。

前でなく、後ろにある場合もまれにあることを覚えておこう。

2、指示語には距離感があることをつかめ！

「こ」「そ」「あ」は「話し手」「聞き手」らの距離や位置によって使い分けてある。

3、複数と単数を意識せよ！

「これ」「それ」「あれ」は単数なので指すものは一つだが、「これら」「それら」「あれら」は複数なので指すものは二つ以上ある。答え方に注意！

4、指示の内容を問われたときは名詞（体言）で答えよ！

名詞を最後にもってくる。
形容詞・形容動詞そのまま名詞の上に付ける。

動詞は主語に続けて名詞の前にもってくる。
主語を「が」「か」「の」形に変える。
5、最後に指し示す内容をあてはめてみて確認せよ！
指示語の指す内容が分かったら、指示語の代わりにその部分を入れてみる。意味が通れば正しい。

理解の道すじ

どれが指示語なの？

何を指し示しているの？

何のために使うの？



ステップ 1

どんな働きをするの？

問題を解くことで
実感しよう！

ステップ 2

どんな使い方がああるの？

身に付けた力でこんなことができる！

文章がスラスラ読める

文章がスツキリ書ける

テストに役立つ

接続語に強くなる！

接続語を正しく理解することは、文と文や段落と段落のつながりをとらえるためにとても重要なことなんだよ。
文や段落のつながりを正しくとらえる力は、内容の把握にも、構成の把握にも絶対に必要な力だからね！

一、接続語って？

前後の文節や文、段落などをつなぐ文節を接続語といいます。

前後の文や文節をつないで、その関係を表します。

接続語にはいくつかの種類があり、種類によって働きが決まっているため、次にくる内容が予測できます。

二、『接続語の問題』攻略法

1、文章は接続語をチェックしながら読め！

接続語が出てきたら印を付ける習慣を付けておこう。

設問の答えのヒントは接続語の前後にあることが多い。

空欄に接続語を補う問題は、前後の文章をしっかりと読んで関係を考える。

2、主な接続語とその働きを知れ！

「順接」：だから・それで・すると・したがって
前の内容が原因・理由、あとにその結果がくる。

「逆接」：しかし・だが・ところが・けれども
前の内容と反対の事柄があとにくる。

「並立・累加」：また・そして・そのうえ・しかも
前の事柄にあとの事柄を並べたり付け加えたりする。

「説明・補足」：つまり・なぜなら・例えば
前の事柄をあとでまとめたり補ったりする。

「並立・累加」：または・あるいは・それとも
前の事柄とあとの事柄を比べたり選んだりする。

「転換」：さて・ところで・では・ときに
前の事柄から話題を換えて別の事柄を述べる。

3、次に来る内容を予測して読め！

・空欄補充の問題は、前後の文章の関係を考えて選ぶ。接続語の前後の内容は、接続語の働きによって予測が可能。

